

## 第4回荒尾市上下水道事業運営審議会 議事録要約版

日時：平成30年3月2日（金）15時00分～17時00分

場所：荒尾市市役所 市長公室

出席委員（敬称略）：

近畿大学 経営学部 教授	浦上 拓也
有明工業高等専門学校 創造工学科 准教授	加藤 浩司
荒尾商工会議所	江崎 光恵
女性ネットワーク荒尾	深浦 淳美
荒尾市食生活改善推進員協議会	田頭 スエカ
荒尾市地区協議会会長会	田中 一大
荒尾市総務部長	石川 陽一

欠席委員（敬称略）：

新日本有限責任監査法人	西 秀雄
荒尾市金融団	吉村 栄治

配布資料：資料－1 第3回荒尾市上下水道事業運営審議会議事録（案）

資料－2 新たな水道ビジョンの概要 ―財政計画―

### 1. 開会

（事務局）これより第4回荒尾市上下水道事業運営審議会を開会します。

西委員、吉村委員におかれましては急用により欠席されましたが、出席委員数が過半数となっておりますので、会議成立とさせていただきます。

なお、西委員、吉村委員には、今回の内容を事務局より別途ご説明する機会を頂き、ご意見を頂くこととしております。

### 2. 第3回運営審議会の振返り

#### ・第3回荒尾市上下水道事業運営審議会議事録（案）について

（事務局）事前に配布させて頂きました第3回運営審議会議事録について、ご質問、ご意見などはございましたでしょうか。

（委員）問題ありません。

#### ・前回審議会の振返り及び基本理念の案について

（事務局）前回の審議会において、委員の皆様より非常に貴重なご意見を頂きましたので、その振り返りとそれに対する事務局からの回答をご説明させていただきます。

- ・地下水専用水道対策については、大口事業者の実態等を調査し、次回フォローアップ時に何らかの対策案を講じたいと思います。
- ・ポスター等に掲げるキャッチコピーについては、新水道ビジョンの基本理念とは別に、広報強化の策でアイデアを出していきたいと思います。また、基本理念自体についても、企業局職員や民間事業者から出し合った案の候補がありますので、今回、委員の皆様にご議論頂ければと考えています。
- ・各施策のスケジュールの表記については、今回の審議会の資料に間に合いましたので、後ほどご説明させていただきます。
- ・郵便局での窓口払いについては、新水道ビジョンの施策のコンビニ納付の検討と併せて検討したいと考えています。
- ・検針の隔月化については、現状の毎月検針を継続し、福祉分野など他分野のサービスとの連携を強化できるかについて検討していきたいと考えています。

(委員) 基本理念の案はどれもよい案と思いますが、将来・次世代・未来という視点だけでなく、荒尾市は高齢者の方が多いということもあるので、今いる人も考慮した理念になればと思います。その点では「いつでも飲めるおいしい水を」という案は具体的でよいと思いました。

(議長) 新水道ビジョンの基本理念は会社の企業理念と同じで、そこで働く方々の思いと目指すべき方向性を示すものと思います。一方、住民の方へ向けたメッセージでもあります。このため、ご発言のとおり、基本理念は、今の荒尾の水道を誰もが共感・共有できるものという視点も重要です。

(委員) そのような視点から、No.2の案の「子供たちの…」の前に「私たち」をつけるのもよいのではないのでしょうか。

(委員) 官民連携は荒尾市が全国に先駆けて行っていることなので、「官民でつくる」ということを入れる案もよいと思います。

(事務局) 引き続きご意見頂きながら、今後も案を作成し、次回の審議会で提示させていただきます。

### 3. 財政計画について

(議長) いよいよ今回は、財政計画について審議頂くことになります。前回、投資計画ということで、今後10年間の事業内容について議論しましたが、それを進めるにあたり、どのような費用がかかってくるのか、それに対してどのような財政措置が可能なのかということをご議論します。非常に重要な内容となっておりますので、積極的な議論をお願いいたします。

(事務局) <資料-2 新たな水道ビジョンの概要 ―財政計画― についての説明>

(議長) 委員の皆様より質問、ご意見などあればお願いします。

(委員) 3条費用の赤字はこのままでよいでしょうか。何か対策を打つべきではないでしょうか。

(事務局) これまで費用削減のための努力はしてきましたが、老朽化した設備の増加等により、このままでは大変厳しい財政状況となります。このため、平成33年以降には、料金改定をせざるを得ないと考えております。

(議長) 荒尾市の水道事業は数年後に赤字転落ということがみえている状況です。このため、今回の審議会においては、早急に料金改定を前提とした見直しに着手すべきという答申をせざるを得ない状況です。ただし、料金改定の幅については、現在実施されているアセットマネジメントの結果が出た後でないと判断できない状況ということをご理解頂ければと思います。

(委員) 今回の財政計画は現状で何も対策しなかったときの計画という理解でよいでしょうか。

(事務局) ご理解の通りでございます。今回はありのままの現状を見て頂く財政計画となっています。赤字解消のために、大きな計画変更をする策としては、事業投資をやめるしかありません。このため、現状では赤字転落は避けられない状況です。このまま何も対策をしないのであれば、平成33年以降の料金改定は大幅な料金改定となると思われます。しかし、この料金改定の幅を抑える目的でアセットマネジメントを実施しています。これにより、市民の方の負担をより少なくできると考えています。

(議長) アセットマネジメント実施によって、まったく費用がなくなるわけではありません。詳細な調査により、延命化できるものは延命化するという形にするもので、魔法をかけるものではないということもご理解頂ければと思います。

(委員) アセットマネジメントは費用を平準化するだけで、トータルでかかる費用としてはそれほど変わらないという理解をしています。アセットマネジメントをしたからといって、赤字転落は避けられないのではないのでしょうか。このため、内部留保資金を考慮すると平成33年以降の料金改定ではかなり限界まできていることから、もう少し余裕を持った料金改定にした方が安心できるのではないのでしょうか。

(事務局) できれば将来を見据えて、今すぐにでも料金改定をさせて頂きたいのが現状です。しかしながら、料金改定の幅はアセットマネジメントが完了しないと把握できないため、その後に料金改定の案を提示させて頂き、改めて審議頂ければと考えています。このため、この準備には時間をかけた検討をする必要があると考えています。

(議長) お金かけなければ、水道管がますます老朽化していくこととなります。この結果、水が出ない市からは人々が流出することとなります。これは市の衰退を意味します。このため、安心して水を使っていくには、必要な投資を行っていく必要があります。水道事業の企業会計上、この必要な投資を行う4条費用は必ず4条収益を上回ることとなり、その不足分を内部留保資金で

補うような構造となっています。この内部留保資金を確保するには、3条収支が黒字になっていなければなりません。しかしながら、荒尾市では現状としてこの構造が成り立たなくなっていることを今回の財政計画が示しています。

(委員) 第3回審議会の振り返りとして、検針について、福祉分野など他分野のサービスとの連携を強化するということですが、民間企業が安否確認など社会福祉へ貢献することで、社会福祉のための補助金などを取り入れることができないでしょうか。

(事務局) 電気事業では、遠隔で検針ができるスマートメータが取り入れられつつありますが、この中で数日間電気が使われていない場合は、そのご家族に連絡がいくようなしくみを検討されています。

(議長) 水道メータのスマートメータ化については、現状として荒尾市に導入するメリットは明確ではありませんが、他都市の事例を参考に知見を深める程度の方向性は示してもいいのかもしれませんが。

(委員) アセットマネジメントはどのような結果が出てくるものでしょうか。

(事務局) アセットマネジメントには、簡易的な検討をするものから、一つ一つの機器をすべて調査した上で詳細に検討するものまでありますが、今回の荒尾市のアセットマネジメントは、詳細な調査と検討を実施しています。このため、アセットマネジメントの期間は3年以上を要しています。この結果としては、すべての水道施設に関する更新計画、修繕計画のみならず財政計画も含む総合的な実施計画が出てきます。

(委員) アセットマネジメントにおいて、荒尾市の水道事業以外の施策との連携は考慮に入るのでしょうか。

(事務局) 今回のアセットマネジメントは、荒尾市の総合計画等と直接関連するものではありませんが、特に大規模な施設の更新計画を策定する中では、水道事業以外の施策で考慮に入れるべきものは入れるということになります。今回のビジョンに盛り込むとすると、荒尾市の水道事業以外の施策との連携を視野に入れながらアセットマネジメントを策定するという表現になるかと思っています。

(委員) 最近の事例では、ふるさと納税の返礼品として郵便局による見守りサービスを受けることができるという話もあります。

(委員) これまでの説明で、荒尾市の水道事業が大変な状況であるというのは理解できました。しかし、これをどのように判断すべきかわかりません。

(議長) 今は水道事業の健康診断をしているものと理解してください。このままでは水道管は破裂していきます。今、ここで状態を診断して、直すところは直すという段階にきています。しかし、人口が減少し、技術の発展により水をあまり使わなくても衛生的な生活できることから、水道料金による収入が大きく減っています。収入が入ってこないが費用がかかってくる時期に差しかかっています。このことを住民の皆様にご理解頂きながら、水道を次の世代に引き継ぐために今、我々に何ができるかを議論しているところです。今までと同じような安い水道料金で水道を使い続けられる時代ではないということをご理解する必要があります。今、この時代にこのことを理解して頂くのがとても重要です。

(委員) これまでの水道はただ使えばよいという考えでしたが、この審議会に参加して、本当に水道事業が大変であることを理解しました。しかし、一般の方には伝わらないのではないのでしょうか。

(議長) 是非、この審議会でご感じて頂いたことを、周囲の皆様にお伝え頂ければと思います。全国的に水道の将来について考えている事業者は非常に少ないです。このような状況では、地方に行くほど厳しいですが、荒尾市は先進的な取り組みをされています。これは、住民の方々の理解があつてこそと思います。

(委員) これまでの説明で、水道事業のリアルな実態が分かりました。周囲の人にも今後伝えていきたいと思います。

(議長) 水問題は、発展途上国では女性、子供の労働問題になります。この点では日本は恵まれた環境にあります。水が当たり前に出てくるということを次の世代に繋げる必要があります。ほとんどの人が日本の水道の現状を知らない状況にあります。しかし、説明することで水道を意識し、理解してもらえるようになります。水道料金が今のままで、今の水道を維持するという魔法はありません。安定した水道事業を継続するためには、適切な費用をかけ、それを水道料金として負担していく必要があります。これを国がやるべきという意見があるのですが、国がやるということは借金を増やしていることになります。この負担は次の世代に引き継がれますが、次の世代の人口はさらに減少していきます。このため、今の世代が負担できるものは負担する必要があります。

(委員) 説明にはわかりやすさが必要だと思います。水道のしくみをマンガにして説明するなどの必要があると思います。

(議長) その部分では広報の部分で工夫が必要だと思います。一般の方に水道事業を理解頂くには、概要版や子供版などの分かりやすくした資料が必要だと思いますので、検討頂ければと思います。

(委員) 財源がないということは、国から補助金を受ければよいと思っていたところですが、議長の話を聞いて、それは借金だと気づきました。一般の方もこのことに気づいていない方が多いと思います。

(議長) 今の日本において、私たちが受けているサービスは、それを借金で買っている現状です。既に手遅れになっている自治体は間違いなく水道料金が一気にあがります。荒尾市はそのようにならないように自立した経営を目指していく必要があると思います。

#### **4. 事務連絡（次回開催日の調整）**

(事務局) 次回の開催を6月1日（金）15時からとしたいと思いますがいかがでしょうか。

(委員) 異議なし。

以上